View metadata, citation and similar papers at core.ac.uk
brought to you by CORE
provided by Asia University Academic Repositories

栗田充治先生のご退職にあたって

板　垣　文　彦

栗田先生は、昨年 11 月 22 日、本学勤務 35 年の永年勤続者表彰を受けられました。亜細亜大学は、本年度創立 77 周年になりますので、栗田先生が歩まれた時代は、本学創設の後半部分、つまり、本学が AUAP や個性値入試で社会的な知名度をあげ、エネルギーの固まりのような大学になっていく歩みと一致しています。

栗田先生は昭和 57 年 4 月に亜細亜大学教養部に着任され、専門の「倫理学」を中心に教職課程科目の他、「ボランティア論」や「災害救援活動論」を担当されてきました。この「ボランティア論」と「災害救援活動論」は、栗田先生のリーダーシップで実現したクルド難民支援（平成 3 年）、台湾中部大地震の救援隊派遣（平成 11 年）という国際的な活動が基になり開設されたもので、本学の「自助協力」の精神が具体的な成果として結実したものといえます。

栗田先生は、その後、課程主任を長く務められましたが、平成 28 年には「亜細亜大学をボランティアの盛んな大学にする」という目標を掲げて学長に就任され、現在も大学改革の大きな流れの中で本学の舵取りを続けられています。栗田先生の「ボランティア」に対する思いは教職課程の業務を引き継いだ私にも最近になって静かに、しかし、しっかりと波紋のように伝わってきます。

外部の教職関係の会議に出席すると、会場にいた他大学の何人もの先生から「ボランティア教育では栗田先生にお世話になりました」とお礼の言

葉をいただきます。私も、以前に、栗田先生に大学の授業で出てくる専門用語の手話を作るために話題提供者として呼ばれたことを思い出します。これは、3、4時間かけて、2つ3つの手話言語を聾の学生や手話通訳者の人たちと作り上げていくという地味な活動です。その地味な活動は、平成28年12月の「第11回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム」での「聴覚障害学生支援に関する実践事例コンテスト」のプレゼンテーション賞獲得に繋がっています。そして、今日、学生にとても人気のある橋本一郎先生の「手話入門」の授業として定着していきます。

そこで感じたのは、「亜細亜大学は栗田先生という貴重なリソースを活かせたのだな。このボランティア精神は多くの賛同者と後継者を得て、本学に根付いるのだな」という思いです。大学に残る者の一人として、栗田先生が本学に残してくださった精神的資産を見守りながら、自分も本学に何が残せるかを考えて過ごしていきたいと考えています。

栗田先生のご健康と益々のご活躍を祈念するとともに、先生の36年間という長きにわたるご尽力に対して、感謝の意を表したいと思います。